

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196000101		
法人名	(株)ユニマツト リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	坂戸西グループホームそよ風		
所在地	埼玉県坂戸市戸口559-2		
自己評価作成日	令和5年3月11日	評価結果市町村受理日	令和5年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2		
訪問調査日	令和5年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

弊社の理念が「世界で一番、仲間を大切に作るチーム！」です。仲間を理解し合う事で、お客様への良いお手伝い出来ます。この理念に基づいた考えで、お客様の笑顔や出来る事の維持が続きます様、支援しております。日々の生活の中でのコミュニケーションで、認知症状の進行予防や体調のケアに努めております。お客様や御家族様が安心して下さいます様、お客様目線で何気ない1日1日を大切にしています。

- グループホームの支援とは「黒子」に徹することであるとの方針のもと利用者への接遇および支援がなされています。入職時より職員への指導を徹底し、陰ながら尽力する職員たちの功労を見守る姿勢がホームの一体感につながられています。
- コロナ禍において交流が難しい中、消防署立ち会いのもと避難訓練を実施するなど地域との連携に努めています。また近隣から得た情報を水害対策・交通事故防止等に反映するよう取り組んでいます。
- バラエティに富んだメニューが策定されており、利用者の嚙下状態に沿った食事形態の提供にあたっています。食事づくりに対する職員の工夫と尽力は他の事業所の範となる取り組みといえます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは世界で1番仲間を大切にするチームであり続ける」の理念に基づき、お互い助け合いながら強調した支援に望んでいる。	法人の変更に対しても会議等にて説明し、職員が安心できるよう配慮にあたっている。近隣3ホームと協働したパンフレットは支援方針・環境等への理解に役立てられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の消防団の方と連絡が取れている。前回の避難訓練では、調整がつかなかった為、参加して頂く事が出来なかったが、今回は参加したいと、直にお伝えに来ていただいた	消防署立ち会いのもと避難訓練を実施するなど地域との連携に努めている。近隣から得た情報を水害対策・交通事故防止等に反映するよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの関係もあり、職場体験やボランティアの受け入れを一時中止していたが、最近少しずつ再開している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ前は定期的に会議を行っていたが、開催できなかった為、定期的に近況報告を書面にてご報告していた	集合開催ができないため、書面開催にて代替している。行政等関係機関への報告を通して関係継続に努めている。	新型コロナウイルスの終息状況や環境を考慮し、タイミングをみて集合開催の再開を予定している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールや書面にてご連絡頂いており、返信や、直接窓口に出向き協力関係を築いている。	コロナ禍において行政側からの通達となっているため、終息後は関係機関も含め双方向の連携としていく意向をもっている。また行政からの指導やアドバイスを運営に活かすよう各種整備に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内挙げて身体拘束撲滅に挑んでいる。玄関の施錠は時節柄事件も多く、安全の為施錠している	身体拘束をしないケア、高齢者虐待防止の研修が実施されている。法人として利用者を尊重した支援を推進しており、掲示等により周知がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束動揺年4回の社内研修を行い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の講習に参加。現在成年後見人を立てご入居されているご家族様あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前に契約事項の説明を行い、ご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時やお電話等でご要望やご意見を伺い、運営に反映している	毎月家族に送付する「そよ風だより」は担当者からのコメントや利用者の写真を掲載し、生活の様子等を報告している。また慎重な衛生対応にて面会等の実施にあたっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施している全体会議やフロア会議の際に意見を聞いたり提案があればその都度議題に出し、運営に反映できる様にしている	毎月、職員が集いミーティングが実施されており、職員の意見聴取と指導事項周知に努めている。全体会議議事録は職員の捺印をもって確認がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々職員との会話を持ち日頃の勤務状況を把握する様にしている。各自目標を持ちスキルアップの向上の後押しをしている。又、定期的な人事交差で意思の疎通を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内、施設内での研修には積極的に参加を勧めている。年間研修の予定があり参加できなかった職員には記録を見てもらい理解してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ前は定期的なGH部会で情報交換をしていたが、今は、毎月の入退去情報で様子を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にご本人と面会し実態調査を行い信頼関係が築けるようにしており、安心してご入居できる準備は怠らない。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様から事前に現在の身体状況や困っている事等お聞きしたり、基本情報の記入をお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅の担当CMから情報を頂き、現状把握に努め必要な支援がスムーズに出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活歴や職歴の記録や家族様からの話を参考にしてコミュニケーションづくりをし生活の中での役割を取り入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月そよ風便りでご本人様の近況報告を行ったりご本人様の代弁者となり、ご家族様にお伝えしたりして良い関係が築けていると思っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅にいた時通っていた美容院に出掛けたり、お寺まで初詣に出掛けたり天気の良い時は近隣の散歩等を行い、地域密着に努めている。	法人の文化祭には製作物を出品するなど趣味や楽しみの継続が支援されている。また地域のひな祭りに出向くなど習慣や風習を大切にしよう心掛けられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ全員が集まってお茶や食事を楽しんでもらう時間を設けている。又、行事にも全員参加を心掛けており、出来る事は積極的にお願いで孤立しない様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、御家族様からタオルや、大きい物ではお布団セットを頂いたり、地域のコンビニでお会いする事もある。退院出来ず退去となった時もお見舞いに行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望・要望に沿った支援を心掛けている。又、意思表示が困難な方にはご家族様と相談しながら支援する様心掛けている。	ケアプラン更新時を中心に利用者・家族の要望を聴取し、ケアに反映するよう努めている。利用者に寄り添う接遇により利用者の意向を引き出すよう日々の支援時から努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に実態調査をさせて頂き、ご本人様とお話しさせて頂き現状把握をし、又御家族様や居宅からの情報を基に個別ケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様のペースで無理のない様過ごして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別のアセスメント・モニタリング、必要な時はは担当者会議を行い、ご本人様やご家族様の意向を基に介護計画を行っている。	利用者と家族の思いを聴取し、総合的援助方針が立てられている。穏やかな生活の継続、安定した支援など利用者本位のプラン作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	Ipadの活用で介護計画書の活用や個別の担当者会議、支援時に感じた事や気づいたこと等職員間で情報共有、ケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物・理美容・受診等、ご本人やご家族様のニーズに応じてその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までコロナでボランティアの受け入れが困難であったが昨年末ごろより、演芸ボランティア、音楽ボランティア等の受け入れを再開し、地域の方々のご協力の基活用させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療機関と月2回の往診で体調をしており、体調の変化には密に連絡をとり連携に努めている。週1回の訪問歯科では口腔ケアに努めている。ご入居前のかかりつけ医を希望された場合はご家族様対応での受信の選択もある。	かかりつけ医・訪問看護・訪問歯科・訪問薬剤管理指導等と連携し、利用者の健康管理に努めている。食事・水分量摂取量をはじめ、日々の健康状態は記録システムにおさめられ、確認と対応に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自社採用の看護師と共にお客様の体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に状況報告を行っている。医師から家族様に病状報告がある時は同席させて頂いている。相談員の方との連携も密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りに関する説明はご入居時に同意書を頂いているが終末期になった場合は再度確認をしている。終末期ケアや看取りの研修も行っている。	重度化した場合・看取りの対応について指針が作成されている。看取りについての事業所内研修が実施されており、適切な支援に対して理解が深めるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置。職員全員緊急対応に備え研修・講習を行っている。事故発生時にはマニュアルに沿った対応ができる様研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防の立ち合いでの訓練を行っている。地域の消防団や近隣の住民の方にもお願いしている。	夜間・地震・火災等の想定のもと避難訓練が実施されている。水害等状況や環境については近隣住民からの情報をもとに対策を講じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段から接遇の意識を持つよう心掛けています。接遇マナーの研修も行っている。	グループホームの支援とは「黒子」に徹することであるとの方針のもと利用者への接遇がなされている。入社時より職員への指導を徹底し、陰ながら尽力する職員たちの功労に管理者は感謝の意を述べている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉の誘導になったり、職員に気を遣わせることにならない様、本人の思いや希望が伝えることができる雰囲気作りを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や個人的の性格等を配慮した個々人の支援やできる限り本人の希望に沿った支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容で、本人の希望に合わせたカットや、起床時や就寝時の更衣交換で1日のメリハリをつけてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本のメニューに添いながら、個々人の咀嚼・摂取能力に合わせ、お粥・刻み・ミキサー食であったり、暖かい食事の提供にも心掛けています。食後の食器洗いやテーブル拭き等は積極的に行ってくれている。	バラエティに富んだメニューが策定されており、利用者の嚥下状態に沿った食事形態の提供にあたっている。食事づくりに対して職員の工夫と尽力がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事摂取量や水分量の記録で健康管理の確認をしている。体調に応じ栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施をしている。義歯使用者には義歯対応洗浄剤を実施。週1回の訪問歯科による口腔ケアも希望に応じ実施。自身で出来ない方はスポンジ等使用し口腔内の衛生管理に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄できる様時間を見ながら声掛けし自立に向けた支援をしている。又、日々の記録から排泄パターンを把握しプライバシーに配慮した支援を心掛けている	排せつの確認と記録によりなるべくトイレでの排せつとなるよう利用者の行動と特性に合わせた支援に取り組んでいる。夜間の移動・移乗など安全に留意しながら取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り便秘薬に頼らず、水分確保やきな粉入り牛乳、野菜、バナナヨーグルト等食べ物の工夫を行っている。又、腹部・黄門マッサージや看護師による腸の動きも確認してもらい、体調管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日々の入浴記録から体調を勘案しながら入浴支援をしている。本人の希望に添った入浴支援も実施。入浴拒否のお客様にも気分よく入浴して頂ける様工夫しながら行っている。	定間隔での入浴により清潔保持に取り組んでいる。バイタルの確認、入浴後の水分補給等安全に留意した支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や個人のペースに合わせた休息を心掛けている。夜間覚醒のお客様には、傾聴したり、ホットミルクを提供しながら安心して休んで頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診ごとに状態を報告し主治医と密に連携を取っている。又、調剤薬局の方と薬の用法・副作用を細かく聞いており、薬の変更があった場合は申し送りノート・往診記録で全員把握出来る様にしている。又、見える所に訪問薬剤管理指導書を設置している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活記録や日常会話から出来る事を見つけ取り入れていたり、3ヶ月に1度の食事に関するアンケートで確認している。又、外部からのボランティアを楽しみにして下さっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候によって外気浴・散歩等を行っている。又、家族様と外食に出掛けたり等ご協力を頂いている。	新型コロナウイルスの終息状況を考慮しながらひな祭りなどの外出行事がなされている。分類変更後は状況をみながら対応していくことを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今年から立替金制度が始まり、預り金制度は廃止した。必要な物の購入は以前同様可能で、ご請求はご利用料からご請求となり、ご家族様の負担が減った。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば架電しご本人様が通話されている。最近では携帯電話を所持されているお客様も増え、自由に電話されている。年賀状のやり取りもされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールの壁等お客様の見えるところに季節感のある飾り物やカレンダーを飾っている。玄関先の花壇には季節毎に入れ替え四季を感じて貰っている。	玄関、壁、床等修繕を図りながら経年劣化への対応にあたっている。日当たりが良いことから採光および室温を管理しながら過ごしやすい環境提供に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが共同空間であり会話やTVを見たりして過ごされているが、一人になれる空間は無い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	不安なく過ごして頂ける様、ご入居時にご自身が使用していた馴染の家具や小物等を持参して頂いている。	自室ではテレビを見たり、横になったりと自由に過ごすことができる環境となっている。夜間の巡視、記録の確認により安心した睡眠が確保できるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活リハビリとして、日々出来る事を繰り返し行い安心した生活を送りながら、自立の維持継続が出来る様に支援している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	48	1人1人の希望に添って戸外に出掛けられる様な目標を掲げているが、中々外出が出来る事が少ない。	天気の良い時には庭に出て日光浴をしてもらったり、近隣への散歩等出掛け、季節を感じて頂いたり、気分転換を図っていく。	天気の良い時は玄関先や庭に椅子を置き、日光浴を行い、気分転換を図っている。月にどのくらい散歩に出られたかは様子等を記録し、職員間で共有している。	6ヶ月
2	55	自立支援を目指し、日常生活動作の支援を行っているが、出来る方が偏ってしまう。	自分で出来る残存能力を生かし、役割を持った生活を送ってもらう。	日常生活動作の支援は、出来る事が決まってしまう事もあるので、対話や運動稼働領域を通し、個人個人に合わせたADLの維持が出来る様支援している。又、ゲーム、塗り絵等楽しく出来る事も取り入れている。	6ヶ月
3	14	同業者との交流を通じた向上の機会があまりない。	コロナで同業者との交流が出来なくなっていた。そよ風同士は常に連絡を取り合っているが、グループホーム協議会が再開され、他4施設との近況情報を持ち、より良いグループホームにしていく。	毎月の空室状況はFAXで把握しているが、それ以上はなかなか難しい。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。